

(別紙4-1)(ユニット2)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700083		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぽぽ岩見沢館		
所在地	岩見沢市6条西13丁目38-4		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0195700083-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します	
項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目的のつくところに理念を掲示している。方向性を明確にした理念を共有し、研修、職員会議で振り返り、理念を理解し実践につなげるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議、敬老会、秋祭り、RUN伴などに地域の方に参加していただいたり、資源ごみを出したり、ごみステーションの掃除をしている。散歩のさいには近所の方と挨拶をしたり、お花を頂いたり日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に行事に参加し、理解を得られるように取り組んでいます。又RUN伴に行政の方、地域の方に参加していただき認知症の人の理解や支援の理解を深めていただいている。見学などはいつでも来ていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、岩見沢市役所介護保険課、地域包括支援センター、町内会役員、利用者家族に参加していただき、運営状況や施設での取り組みについて報告し、意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、避難訓練、敬老会、施設の秋祭りなどに参加していただき、メールで毎月の入居状況の報告や、たんぼぼ通信を届けて、施設の活動の取り組みについて伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で身体拘束・虐待防止委員会を設置し、職員が禁止となる行為を正しく理解するために研修をしており、入社した職員は外部の虐待防止研修会に参加し具体的な行為を、正しく理解できるよう取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、施設内研修、職員会議で管理者や職員が、学ぶ機会を持ち、虐待が起きないように話し合い、自身のケアについて振り返り、ストレスチェックを行ったりして防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修はしていない。今後研修する機会があれば学んで行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、利用者家族に見学していただき、管理者、ケアマネが利用者家族から不安や疑問について尋ね、十分な説明を行い納得していただいて入居契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と良好な関係を築けるよう、家族が来訪したさいには、家族から意見や要望を聞いている。家族からの意見や要望は、連絡ノートで情報を共有すると共に、職員会議で話し合いが持たれ、運営に反映させている。意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と積極的にコミュニケーションをとり、いつでも意見を提案しやすい環境づくりに努めている。又職員会議での意見や提案を聞き反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。希望休み、有給休暇も自由に取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員個々の能力に合わせて、外部研修を受ける機会の確保や、働きながら資格取得を支援する制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新設するグループホームの職員の実習を受け入れたり、管理者、ケアマネが定期的に地域のグループホームと交流し、相互の活動の様子の情報交換を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に管理者とケアマネが利用者にあセスメントを行い、入所後は話しやすい雰囲気を作りながら信頼関係を深めて、本人が安心できるような関係づくりにつとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者、ケアマネが家族と話し合いをし、家族が困っていること、不安なことに耳を傾けながら、施設でのケアの方針を話し合いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネが、本人家族と話し合い、必要とする支援を把握し、暫定プランを作り、家族と相談しながら必要な支援をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に支援するだけでなく、暮らしを共にする物同士として、互いに協力、支えながら生活を送るよう関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪したさいには居室でゆっくりしていただき、職員が日常の生活の様子を伝え、情報を共有し共に支えていく関係を築いている。毎月生活報告書で、利用者の日常を報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の美容室に続けていき、お喋りを楽しまれて馴染みの関係が途切れないよう支援しています。知人が来訪されたさいには、ゆっくりしていただき自由に過ごしていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状の様子を把握し、孤立せずに共に楽しく生活できるよう、職員が関わりながら良好な関係が作れるよう努めている。又歌を歌ったり、トランプをしたり、1階に遊びに行きトランプをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても必要に応じて相談があれば、支援に努めていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの様子に眼を向けるように勤め、出来るだけ本人の話を聞き、本人の気持ちを大切に、希望に添えるように努めている。困難な場合は職員が話あい、情報を共有して寄り添ったケアが出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族本人、関係機関の情報でこれまでの経過を把握すると共に、利用者との会話の中でも多くの事を知ることが出来る。個々のインフォメーションシートをファイルしてあり、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常について、支援経過記録や、アセスメントシートに記録すると共に、共に過ごしながら心身の状態を見極めながら、現状の把握に努めている。毎日バイタルチェックをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の様子は、モニタリング、家族の意見を聞いて、職員会議で介護計画、要望、状況の変化について話し合われる。管理者は、その都度家族と連絡し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に支援経過記録、アセスメントシート、医療ノートに記録し、日々の様子を職員同士で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状態が変わるため、その時々生まれるニーズに対して、職員がその都度話し合い、その人らしい生活が送れるよう対応し、支援について柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望を聞きながら、散歩や、ドライブ、買い物に行き、暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を踏まえて、入所前から利用している病院に、職員対応で受診している。重度化した利用者は通院が困難になる前に家族と相談し転院して、通院が困難になった場合は往診していただいている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な身体変化については、医療ノート、看護記録で情報を共有し、非常勤看護師に報告、相談し指示を受け支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族と同居し説明を受けている。家族の希望と本人の様子を報告し、早期に退院できるように施設の意向を聞いてもらい、病院と情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入院時に、重度化した場合の施設の介護方針を説明し、同意を得ている。管理者は、家族に終末期や重度化に対する希望や考えを聞き、施設で出来ることを説明しながら方針を共有し、重度化した場合は主治医に相談しチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアルを作成し、緊急時の研修もしていますが、全ての職員が定期的に訓練を行うことは出来ていないため、実践力を見につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年火災訓練は市職員参加で、隣接する施設と合同で2回行っています。災害訓練は行っていないが、研修で災害の話し合いをしたり、備品、備蓄等の備えをしています。近隣の施設と災害時の協力体制に関する協定書を取り交わし連携体制を築いています		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を念頭に嫌な気分させないように気をつけて、言葉かけや、対応をしていますが、日々一緒に生活するうえで馴れ合いの言葉かけになる事も多いため、言葉かけには今後も学んで行きたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話や、訴えをきちんと聞き、本人が意志表示や、希望、自己決定できるよう働きかけています。意思表示が難しい利用者は日々の状況を踏まえて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	時には職員の都合を優先してしまうこともあります。利用者が中心であることを忘れず、一人ひとりがどのように過ごしたいか希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見て季節に合った身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援している。定期的に散髪し、爪などにも注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と食事のメニューを見たり、季節の食材を見たりしながら役割分担し、利用者の好みに出来るだけ近づけて、食事が楽しい時間になるようにしている。食事準備や、片付け、食器拭きは職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や、食材の大きさ、固さを把握し、必要な量が確保できているか、個々に記録している水分、食事のチェック表を確認し、一人ひとりに合った支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけをし、本人の出来る事をしてもらい、介助が必要で充分出来ない利用者には、口腔ウエッターを使用し、清潔保持に努めています。自身の歯がある利用者は、定期的に歯科医で、口腔ケアで清潔を保てるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常的に排泄チェックシートを用い、利用者一人ひとりの排泄間隔を記録し、本人の排泄パターンを把握し情報を共有しながら、トイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、排泄チェックシートを用い、水分や食事量に注意し、食事では、果物、ヨーグルト、野菜を取るようにして予防に取り組んでいます。毎日体操を行っていますが、体を十分に動かすことが難しくなっているため、便秘が続くときは看護師に相談し下剤で調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	日曜日以外は入浴が出来、利用者の希望に沿って入浴できるよう支援している。利用者同士でも入浴している。何度も同じ事を繰り返したり、洗身が難しいときは職員が支援し、プライバシーに配慮しながら声かけや、見守りをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動量にも配慮しながら、その日の状態に配慮し休息時間を作り、自由に過ごしていただき、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に、薬剤情報をファイルしており、常に職員が確認できるようにしている。服薬が変わったさい、服薬後の変化は、日常的に医療ノート、業務日報に記録し、医師に相談している。誤薬がおきないようチェックシートを使い確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの好みを把握し、食事の準備片付け、洗濯たみ、ゴミだし等役割、張り合いが生まれるよう支援しています。散歩、外食、で気分転換をしていただいたり、利用者同士でトランプをして楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者との外出は常に自由で、希望に沿って外出できるよう支援しています。日常的に散歩、地域のイベント、花見、外食、普段行けない、千歳水族館、木下サーカス等遠出したり、年末には居酒屋の協力で、利用者職員合同忘年会を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しくなっており持っている利用者はいません。欲しいものや、買いたいものがある場合は職員と一緒に買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があればいつでも電話をかける事が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や、リビングの明るさ、日差しには特に配慮し、一人ひとりが安心して、居心地よく生活できるよう配慮している。お花を飾ったり、季節ごとに飾りを変えて季節を感じていただき、清潔を保ち居心地代よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が混乱や、不安が生じないよう状況に合わせて過ごしていただき、仲の良い利用者同士でお喋りをしたり、テレビを見たり職員とお喋りをしたり過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に利用者と家族に、居室で使うものは自宅で使っているものを持ってきていただくようお願いしています。家族の写真を飾ったり、お花を飾ったりして居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、手すりが設置してあります。トイレの目印を分かりやすくつけたり、歩行が不安定な利用者も手すりを使い、職員見守りで自立した生活が送れるよう工夫している。		